

# 株座が維持されること

南丹市園部町竹井の宮衆の地位をめぐる

大野 啓

*Kabu-za Being Maintained : Over the Position of Miyashu in Takei, Sonobe-cho, Nantan City*  
OONO Hajime

はじめに

- ① 丹波地域の祭祀組織
- ② 摩気神社の祭祀
- ③ 竹井の祭祀組織
- ④ 宮衆であること
- ⑤ 宮衆でないこと
- ⑥ むすびにかえて

## 【論文要旨】

本稿はいわゆる株座的な形態を持つ口丹波に存在する南丹市園部町竹井の祭祀組織がどのような構造を有しているのかを検討し、株座的な祭祀組織の形態が何故、現在まで維持されているのかについて論じたものである。

竹井では宮衆と呼ばれる家筋から選出されるクジユウノトウという役割と元摩気という小地区に存在している株の全てから選出されている宮衆という役割が存在している。これらの役割を勤めることができる家は、竹井のみならず周辺の村落の人々からも由緒がある家筋であるという評価を得ている。なお、クジユウノトウを選出する宮衆は特定の株の本家が勤めるものとされており、由緒ある家であることが宮衆となる要件であると考えられている。しかし実際には宮衆の中に経済的な事情で竹井から退転した事例もあり、同じ株の成員が宮衆の権利を継承していた事例がみられる。このような事実から元摩気ともう一方の宮衆の権利は一義的には特定の株に付与されたものであり、どの家が宮衆になるのかということは二義的なものであると考えられる。

元摩気では入株と称して系譜関係がない家が新たに株の成員になり、宮衆となる権利を獲得した家があるという伝承を持つ株も存在している。さらに、竹井の中で表面化することは無かったが、第二次世界大戦後にはクジユウノトウを選出する宮衆になる権利を得ようとする株も存在していた。地域社会の中で宮衆となることは一定の威信を獲得することであると言えるが、現在の竹井では新たに宮衆の権利を獲得しようとする家は存在していない。さらに、一部ではあるが、宮衆であることが祭祀での負担につながり、その負担から逃れたいと考える人々も現れるようになった。このような事態は、従来までの閉じられた社会での威信の獲得が地域社会で生きていくうえで重要な問題であったが、多くの家が外部社会で生計を立てていくようになり、地域社会での威信の獲得が重要なものとはみなされなくなっていく結果であることを示している。

【キーワード】株、宮衆、祭祀権